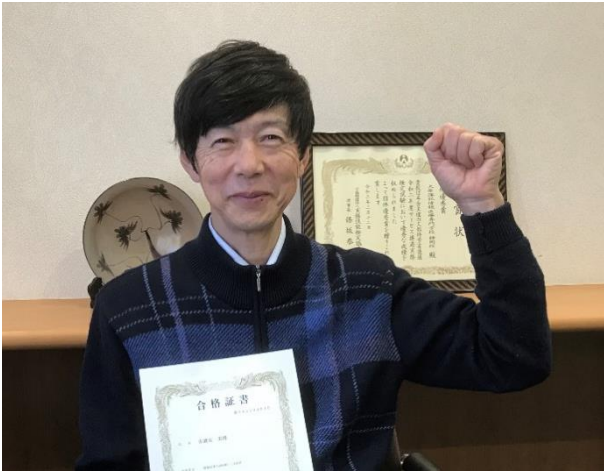


【資格の大原 静岡校】

2024年度 宅建士試験 合格体験談



Y ・ S さん

2024年 宅建士合格コース・入門パック

2024年 宅地建物取引士試験 合格

はじめに

まず初めに宅建士に一年目で合格出来たのは石田先生をはじめ資格の大原のおかげです。本当に有難うございました。テキスト、問題集、講義内容は合格のために必要なノウハウが効率良くまとまっていると思いました。

受験の動機

宅地建物取引士に挑戦しようと思ったのは2023年の10月でした。アルバイトで不動産会社の駐車場の見回りや清掃作業をしており、宅建士の方が身近にいました。また、68歳の自分の記憶力の低下が気になってきたので、この機会にしっかりと机に座って勉強をしようと思ったからです。いろいろな検定や資格がありますが、宅建士は難しいけれどもみんなが知っている国家資格であることから選びました。

現役時代、職場環境が多少不安定だったので、万が一、解雇された時のため、販売士2級、秘書検定2級、消防設備士乙5、危険物取扱者乙4、二種衛生管理、FP3級等を独学で取得しました。宅地建物取引士も最初は独学で挑戦しようと考えました。

自分の勉強の仕方として、一度、(日本史や世界史などのような)マンガによる簡単な参考書を読んでから本格的に勉強を始めますが、宅建士のものを読んだ時にマンガにしては難しいと思いました。併せて過去問も確認してみるのはですが全然わからない。宅建士の資格は、常識的に独学では無理だなと12月頃に判断しました。何校かの説明会に参加した結果、週2回の教室通学の授業がある資格の大原に決めました。

そして、もう一つの資格の大原に決めた理由は石田先生の説明会を受けたからです。

石田先生の前向きな姿勢と発言はとても好印象でした。私の学生時代は正反対でいつも駄目出しされてそれでも這い上がって行く、まるでスポ根のような取り組み方が美德とされていましたので新鮮に感じました。前向きな話し方でこの先生がいいなと思って大原に決めました。石田先生にお会いできて良かった（笑）。



授業開始

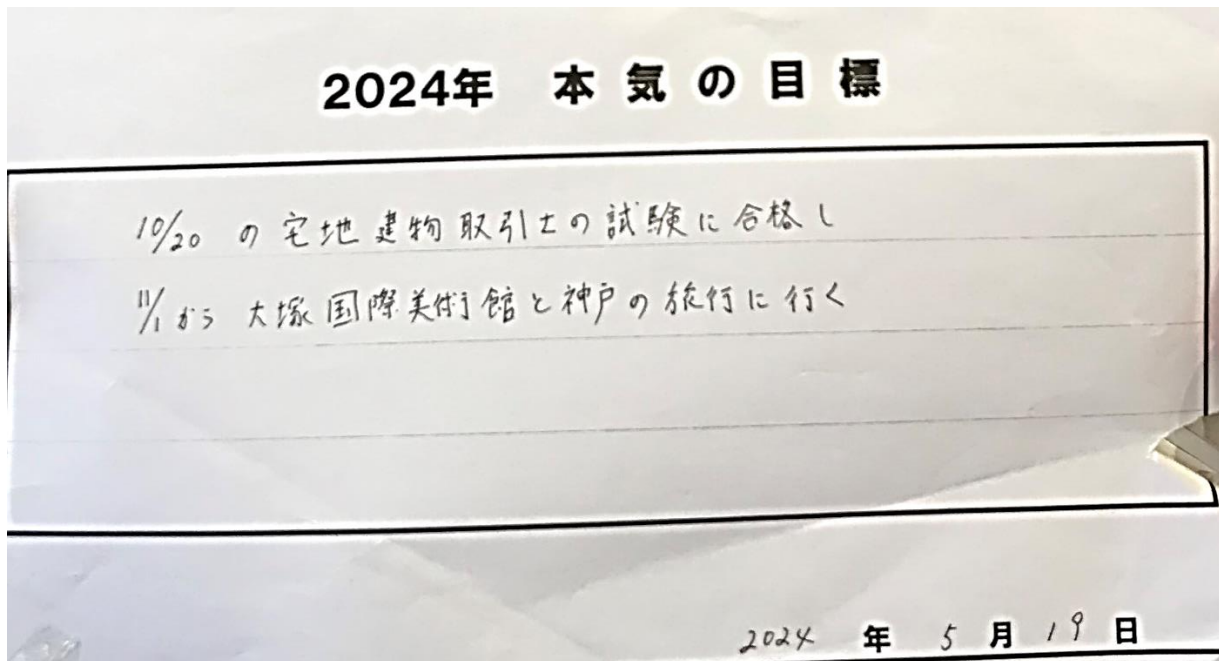
実際に通ってみると現役世代の方が多く、記憶力の低下を感じている自分に少しずつ不安を覚えました。でも自分で決めて始めた事でもあるため、とにかく前向きな気持ちで「自分は試験に必ず合格するのだ」と心の中で念ずるようにして、家族にも同僚にも「必ず合格するから」とあえて発言するようにしました。このような自ら積極的な言動をとることは今までは考えられないものでした。

勉強方法とモチベーションキープ

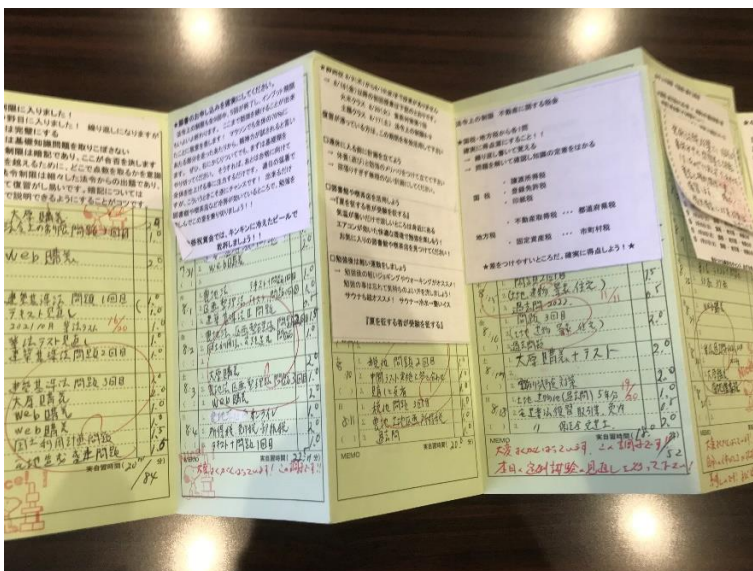
合格体験記（『GOLDEN KEY』OBOGの合格体験談をまとめた冊子）は参考になりました。少なくとも3回は読んだと思います。そして、（来年は自分が合格体験記を執筆するのだ！）と思いました。そのためにも合格者の方のオススメの勉強方法をなるべく取り入れるようにしました。

先生から渡された『本気の目標』にも【一発で合格して徳島の大塚美術館へ旅行に行く】と書いて壁に貼り付け、『一発合格シート』も毎回提出しました。また、石田先生が開くオンライン講義(不定期・無料)にも参加するようにしました。結果的に1月~10月までの長期に渡り緊張感を保てたと思います。

『一発合格シート』は、実は最初はバカにしていたところがあったんです(笑)。だけど、これを提出する人が結構受かると先生がおっしゃっていたので、とりあえずやってみるかと思ったら、これ案外効果がある。いや、すごくある!(笑)。



●Y・Sさんがお書きになった『本気の目標』。みごとに2つの目標が実現した!!



●自宅での学習記録を毎回の授業で講師に提出。講師のコメントや基礎法学の知識などが貼り付けられて返却される。自主勉強の後、記入することがいつしか喜びになる!!

勉強時間

気になる合格までの学習時間ですが、特に『法令上の制限』（都市計画法や建築基準法等）の知識が無ければ500時間は必要と感じました。300時間と書いてある本もありますが、500時間を目標にしました。8月・9月はみんなお尻に火が付くので勉強をするのですが、やはり5月から8月までのインプット期の勉強をしっかりとやらないと500時間の確保は難しいと思いました。

勉強時間をまとめてみると、私の場合、1月～10月までの総トータルで567時間でした。インプット期300時間、アウトプット期200時間、仕上げ50時間位です。

机に座っての学習は長らくご無沙汰だったので、初めの頃は15分位しか座っていただけませんでした。しかし、5月頃から暑くなってきたので空調があり自宅から近い南部図書館に通うようにしました。少しずつ勉強時間が増えて6月頃からは月間80～90時間になりました。

ちなみに勉強場所として図書館はオススメです。図書館に行って席に座るとみんな勉強をしているため、自分も勉強モードに入ることができます。自宅から近いため南部図書館を多く利用しましたが、県立図書館もオススメです。



学習スタイルー1 [インプット期]

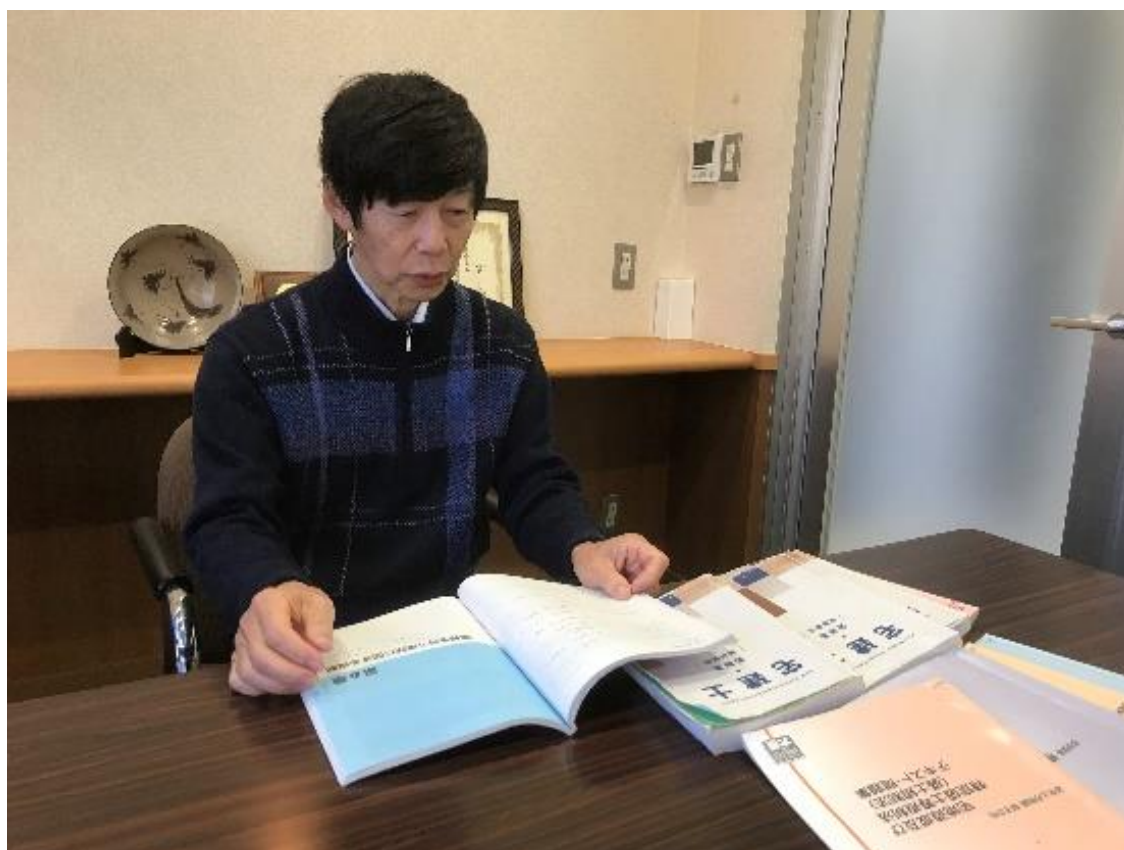
予習はせずに講義を受講した後、15分ほどテキストで復習をし、次の講義までに問題集を3回やるというスタイルです。5月の連休明けから8月まではついていくのに大変でしたが、通勤時間や昼休みの30分など短い時間を積極的に使いました。長く時間が取れる時よりも限られた時間しかない時の方が集中することが出来たように思います。特に7月から8月の時期の辛抱が大事だと思います。

学習スタイルー2 [アウトプット期]

8月の講義が終わった頃から少しずつ前の講義内容を復習しはじめました。併せて、苦手な宅建業法35条書面（重要事項説明書）・37条書面（契約書面）や借地借家法の辺りを勉強しました。

その後は9月の模擬試験を直前の目標としました。過去問練習は過去本試験問題の50問を一気にやるのではなく、宅建業法20問だけとか権利関係14問だけに限定して4年分挑戦したりしました。

自分の実力がどれくらいなのかわからなかったので、問題集を平均5回転くらいやった時点で過去の本試験問題50問を2年分実施しました。その結果、47点と44点だったので少し安心しました。



学習スタイルー3 [直前期]

その後の模擬試験の平均は 45 点だったので資格の大原の指導方法は正しいと感じました。模擬試験が終わる頃に市販の模擬試験を購入しようか考えましたが、石田先生からは「決して他の(市販の)教材に手を出さず手元の教材を信じて繰り返し実施してください。」と言われたので最後まで同じ教材を使いました。問題集は平均で6回転位です。

資格の大原の教材は無駄なく作成されており合格点に達するには十分と思います。

学習スタイルーまとめ

全体を振り返ってみるとモチベーションのキープと勉強時間の確保が重要だと思います。

モチベーションのキープについては、家族や知人に受験することを敢えて宣言することで背水の陣を敷きました。勉強時間の確保については、通勤時間や休憩時間を利用してながら図書館に行く事を習慣化しました。

合格発表

合格発表の当日、インターネットで受験番号を確認。自分の前と後ろの番号が20番ほどありませんでした。家族に合格したことを報告しました。やはり喜んでくれました。

自分自身は周囲に宅建士の受験をする事について伝えたことがよかったかなと思います。「自分は合格するよ」と宣言する。やはり自分自身で合格すると思込むこと。「先生が合格すると言ってるから僕は合格する。」と会社の同僚にも伝えました。

ほかの先生だったら合格が難しかったと思います。石田先生に会えてよかったと思います。

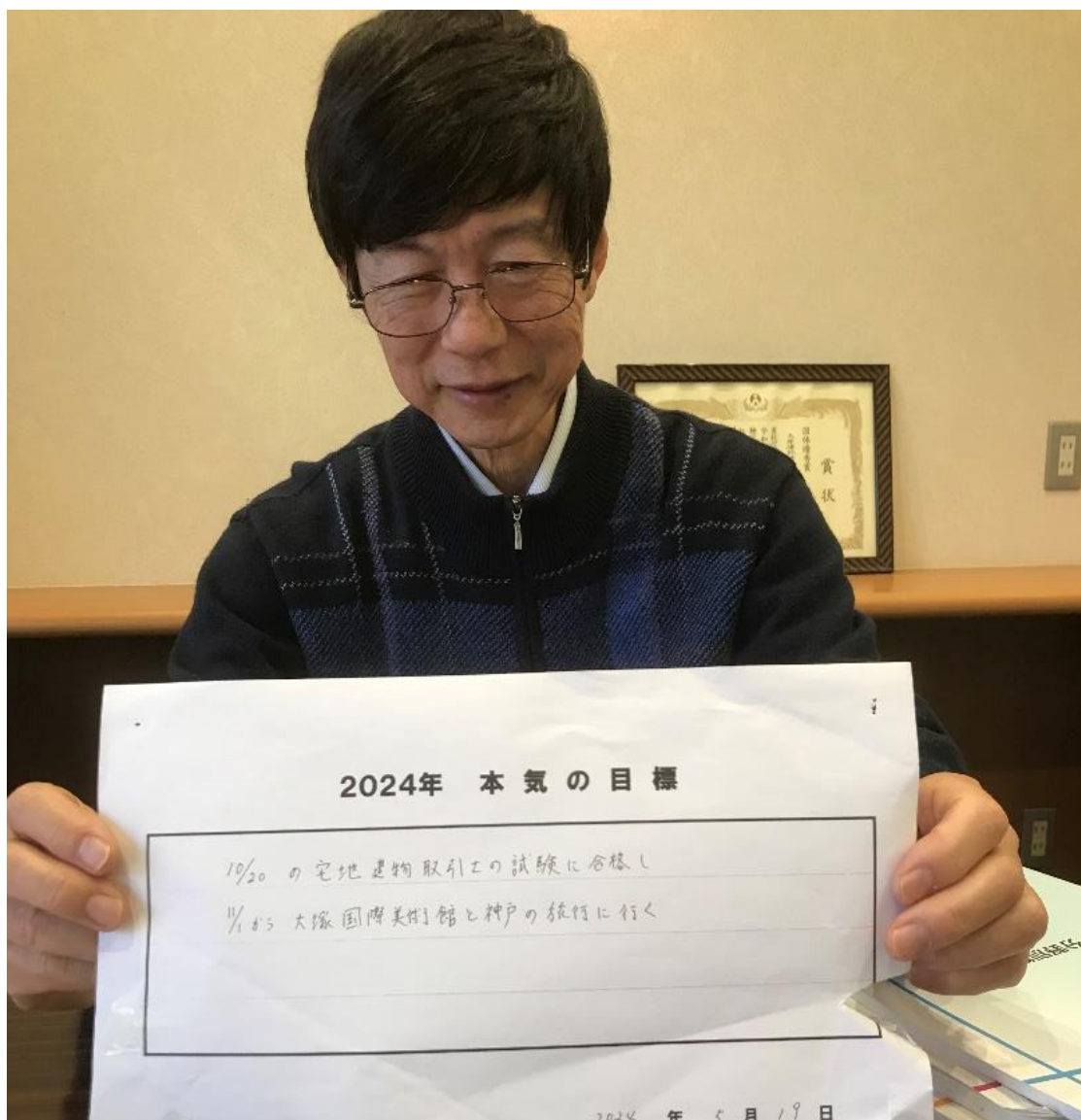


エピローグ

宅建士の受験勉強が終わってみると頭がすごく活性化するようになったと思います。テレビのクイズ番組とか嫁さんと観るんですけど、例えば、人物の写真を見て名前を答えるクイズ等では、分かっているつもりでも名前が出てこないということが度々ありました。それが今は名前が出てくるようになった。嫁さんが「今日はいいいね！」というんだけど、それは「今日」だけではなくて、この頃、ずっといい（笑）。

その他にも改めて歴史に興味を持つようになりました。みんなが知っている国家資格である宅建士を取ったということ自体も良かったのですが、自分の生活全体にハリが出たように思います。

今後の具体的なことは未定ですが、まずは自分へのご褒美として大塚国際美術館と神戸旅行を明日から楽しんで行ってきます（笑）。 [インタビュー 2024年12月10日]





宅建士試験の合格、おめでとうございます！ Y・S 様の益々のご活躍を祈念しております！

『楽しみながらがんばる！』

2024 年 12 月 10 日

担当講師 石田俊一・大原スタッフ一同